

中学一年生 学級づくりの実践

小千谷市立小千谷中学校教諭 山崎 弘

はじめに

この記録は、はじめから小集団の研究をねらったものではない。

学級経営という概念は捉えにくい。人それぞれの捉え方はあろうが、私はそれを「学習という目的を中心に結びつくべき学習集団の形成」というふうに考えている。集団であるからにはひとつの目的やそれにむかっての方向性と結びつくことが前提であるが、その方向性は、本校の教育目標である「おたがいに励まし合い、みんなが精一ぱい力を伸ばす」人間の形成を目指している。これを分析して、

- ① 学級集団の中に生き生きとした人間関係をつくる。
- ② みんなが意欲的に学習に取りくむ。
- ③ 生活をたくましく切りひらく力を育てる。

これらが、中学校3か年の学級経営でねらっている望ましい人間形成の方向であると考えられる。

まず第一段階として、学級集団の中に生き生きとした人間関係を作るにはどうしたらよいか、ということが中学一年生の担任としての私の課題であった。学級の生活グループや係グループの組織を確立してその活動の活発化を図ることを最初の目標とし、このために相互の助け合いを強調したが、単にグループをつくっただけでは活動は活発化せず、助け合いは生まれてこない。生き生きとした人間関係を作るには、生徒ひとりひとりの実態を見つめ、ひとりひとりの個性を生かさなければならない。その個人は、最小限に相互作用をする人間関係の単位の中において、まず生かされるべきだと考え、試行錯誤の中でおのずから、班づくりの方向へ導びかれて行ったのである。

1 当初の班づくり（一学期）

I 新入生のすがた

「中学校はきびしい。とてもすごい先生がいる。たとえば怒ってればいい気になっている先生がいる。ほくは小学生のような態度ではとてもつとまらない。中学校は一か月ごとにとばせる。なぜとばせるか。（校内マラソンのこと）その意味は校長先生から聞いた。中学校は鍛える学校だといった。きびしそうな校長先生というような気がした。ほくたちの先生はとても怒るげな顔をしている。めがね越しににらむとてもこわい顔だ。なんだか中学校は強そうな人ばかりで、3年生はほくの2ぱいもあるような体つきだ。体育館で遊ぶと、23年の人ばかりであまり遊べない。中学はとても鍛えられるところである。」

「中学生になって一番感じたことは、小学生とちがって教えてくれる先生が1時間ごとに違うことだ。女先生男先生といろいろいる。字を大きく書く先生、小さく書く先生、大きな声で話す先生、小さな声の先生など、まだまだたくさんある。見たこともない先生が教えにくると、ほくはすぐに怒る先生だろうか、やさしい先生だろうかと思うことだ。もしも、怒る先生だと思つとぞーっとする。頭の中にはもうみんなが怒られているようすが想像されるのである。……（後略）」

入学5日目の作文である。一年生の多くは中学生になったという喜びの奥に不安と怖れを抱いている。

あえてそれを慰め、早急に不安を解消してやるより、この不安と緊張の中に新しい世界への適応のしかたを考えさせてやる方がよい。この不安な気持ちを抱いた集団をどのようにして、自信を持ち、信頼し合い、しかも落ち着きのある集団に変えて行くか、これが私の心にひそかに願った目標であった。49名を組織化しなければならぬ。話し合いの小単位として、学級のさまざまな活動や問題解決の最小単位として、6〜7名ずつのグループによる生活班をつくった。

2 班づくりの手順

学校の制度である学級週番8班編成に即してその中で生活班としての活動を期待して、次のような順序で班編成をした。

ア 班長としての条件は(事前討議)……入学3日目にクラスの生徒に対し次のようなことを調べた。面識のある度合は、半数以上知っているもの(12名)、15名ぐらい(23名)、10名ぐらい(10名)、5名以内(4名)。(学区内小学校は3ヶ校で、その6分の5はA小学校で占めている)

班長としての条件を、白紙の状態で見せると、「小学校の時やった人」「できる人(成績のよい人)」「親切な人」「実行力のある人」その他であった。

イ 投票で8名の班長選出……学校週番との関係で、班長は男4名女4名になるように指示する。

ウ どの班に所属するか(討議)……意見が二つに对立した。(イ)好きな班長のところへ行く。(ロ)身長順に班と座席を作る。(イ)の意見に対して、班員の数がアンバランスになる。はずされた人が気の毒だ。まだ、初めであるから好き嫌なく誰の班へ行っても気持ちよく一しょにやっけて行こうではないか。こうして(ロ)の意見が深まった理解のもとに同意された。

エ 教師の要求……班の構成は男女半数ずつの混合班、座席は男女となり合わせ、副班長を班会議によって選出すること。(男の班長には必ず女の副班長)この班は1年間固定したものでなく、少なくとも学期に一回、事情に応じて要求があり、それが妥当と認められれば、いつでも変え得る。

3 班組織の活用

ア 6・6会議(6人が6分間行なうバズ討議)……学級活動の話し合いの時間や朝礼終礼時での提出される問題を、学級全体の話し合いでは発言者がどうしても限られてしまうので、これを班問題に還元して誰もが気軽に意見を出し合える雰囲気醸成をねらった。

イ 班ノート……1日の生活を記録に残し、班内の人間関係を正しい目でみつめ、批判し、是正できるように、毎日の反省を班員の輪番制で書かせた。

ウ 班長会議……毎日の生活に規律性を要求し、班員をリードしていくリーダーとしての訓練を、班長会議に期待した。班長はまた学校の週番員でもあることから、週番目標を学級に伝達し徹底させるために班員を指導することを望んだ。同時に班内の問題も汲み上げることができるよう、班会議や班活動のリーダーとしての責任を強調した。

II 一学期の反省と問題点

1 「助け合い」とのことばの浅薄さ

当初に「助け合い・励まし合い」ということを班活動の目標として掲げ、機会あるごとに強調したのであるが、それが観念として浮き上がり、生徒の生活実践として定着しなかった。何を助け合い、何を励まし合うのかということについての明確な枠づけを教師が与えなかったためと思われる。勉強のわからないことを教え合い、と言ってもどのように教え合うのか方法を知らず、リーダーも最初は張りきってみたが、

やがて外部の仕事の多忙(学校週番員)を理由に、班の内部のことには日常的な馴れ以外の何物も要求しなくなり、日々の生活目標もただ目標を定めるという形式化から脱し得なくなった。班員は明らかに集団としての自覚が不足し、自分勝手な行動が多かった。

2 班ノートのマンネリズム

班ノートは、ただ教師から押しつけられたから書くという自主性のないものになり、書くことは書いたが、それが次の日の班活動への足がかりになるということからかけ離れてしまった。「……して困ります」「……したので注意してもらいたい」という表現が多く、自分の班で発生した問題を、自分の班で解決しようという意気ごみはなく、教師の権威にすがって解決しようとするか、あるいは妥協、無関心が示されたり、形だけの小集団の中であって、個と個の連帯意識が育たなかった。また問題児として攻撃される生徒が固定化して来て、どこの班にもそのような生徒の行動がノートの前面に押し出されて、他の中間層(実は班を推進するもっとも大切なフォロワーの役割を果たす層なのだが)がその影にひそんでしまった。問題児は攻撃されることに馴れ、救われるところがないように見えた。

3 男女の意識的対立

教師側から規律性のみを要求すると、自然に男子の粗暴さが浮かび上がり、女子側の攻撃的になり、班の話し合いや清掃時において、男女の意識的対立がめだって来た。

4 班活動が不活発になった原因の考察

班をつくり、リーダーを決め、方法を指示しても、活動が活発にならないのはなぜか。集団としての意識の高まりがなく、ただ与えられたが故にその形式の中に何とかやっているという消極さは何によるのであろうか。その原因は次のように考えられる。

- ア 物事や事件を自分のものとして自覚しは握できない。問題を問題として意識せず、日常あたり前のこと、あるいはしかたのないこととして受け取っている。
- イ 問題があるということは意識していても、自分が解決しなければならないという自覚に欠ける。どこかで誰かがやってくれる(例えば、教師や週番)という考えがいつもはたらいしている。
- ウ 自分のものとして解決せよ。と言われてもそれを追求する方法を知らない。(教師に責任がある。)
- エ 班活動の目標を持たない。

Ⅲ 二学期の班づくり

1 9月の再編成

2学期は始まったが、1学期の班づくりを失敗と考えていた私は、再び男女混合班を作ることに心が重かった。私はここで、しばらく彼等の恣意のままにさせるのも一方法ではないかと考えた。組織替えの問題を、わざと班長会議にはからずに直接、学級総会へ持ち出した。案の条、男女別々の班になることが提案され、大した異論もなく可決された。理由は、同性の方が班の結束もよくなり、清掃などもやり易いということであった。私は彼等の決定を受け入れ、班ノートも中止すると告げた。男子の方から「ああよかった」などという歓声があがった。一種の緊張からの解放感のみなぎった。しかし私は、これは臨時の編成であって、しばらく様子を見る。という事をつけ加えた。

2 三たび編成する(10月末)

ア 教師としての決意

文化祭が終了後は落ちつくので、この機会に学級の固め直しをしなければならないと考えた。そこで

現在の男女別の班を男女混合班に組み直し、班ノートを復活させ、じっくりと班活動を考えさせてみよう。

直接の動機は、私の担任教科である英語の時間、宿題を調べてみたら、ひと班に2.3名のもので宿題をやっている。その中にはすでに学習が遅れて宿題をやろうと思っても勉強方法がわからないというものも出て来ている。それに対する個人指導の対策は残念ながら何も立てていない。このままだとこのような生徒たちは置き去られてしまうだろう。また遅れていることをさして恥とも思わないでいる。英語ばかりでなく他の教科においても同じような現状なので、この学習に対する無気力を打ち破って自信をつけ意欲を盛り上げさせることを、班活動の重要な仕事にすることはできないだろうか。

イ 班長会議

さっそく班長会議を開き、教師の意図は伏せておいて、新しく班編成をしたいがどうかと発問した。これには班長8名が全員賛成。気分の一変は彼等も願っていたらしい。「先生、班長も交代させてくんねえかな」「そうだ、そうだ」「たまには、他の人にやらせてもいいよだ」彼等の意図は班長という責任のあるわずらわしい地位からおりたいことにあるようだった。生活班の班長は、そのまま学級週番の班長として学校週番員の仕事に当たっていた。この仕事が忙しいことと、学級週番員(班員)が週番の仕事に対して消極的なので、この二者の間のギャップが目立っていた時であった。彼等のいい分はもっともであったが、学校週番は学期の途中でかえるわけにはいかないので、私は、週番とは別な学級班長を作ってはどうかと提案した。従来の副班長というのは、班編成後班内で互選されたもので、その活動は無効に等しい現状であった。

私の提案は、学級会で学級班長を8名選び、これと従来の週番班長8名を組み合わせる。班内のできごとについては学級班長に大巾な権限を持たせ、週番班長と協力して学級週番の仕事もやる。というのであった。8名の班長は自分たちの責任が少しは軽減されるというので、これに大賛成であった。

次に班員の構成をどうするか。男女別か、男女混合か。私は男女混合班にすることを内心決めており生徒たちの反対にあっても説得するつもりでいた。しかし意外なことに、男女混合班の方がよい、という意見が女子側から出された。二学期の最初、別々の班でやって来たが女子だけではうまく行かないという。女子だけだと何かぐずぐずして仕事やりにくい。男子がはいっていた方が活気があって、班のまとまりもよいというのである。男子側からも似たような意見が提出された。男子だけだと騒々しく、つい自分勝手なことをやってしまう。女子がいるとそういうことを引きしめるし、きまりも守れるというのである。

ウ 男女混合班と学級班長の成立

学級会では、学級班長を作るという提案は全員に承認され、8名の班長が選出された。

男女混合班を作るということは、初め賛成24、反対23で、私は賛成が多いのに驚いた。議長は一票の差で決定しようとしたが、私は「このような重大な問題で意見がほぼ半々に分かれている場合は、軽々しく決をとらず、さまざまな人の意見を聞きよく考えてからにしようではないか」と提案。採決を終礼時に持ちこした。終礼時の採決の結果、賛成35、反対12でほぼ4分の3、賛成をもって男女混合班が成立した。座席は班ごとにまとまることになり、班内で男女をらぶと、班員の構成については教師と班長会議に一任することだけが残った。

エ 教師の要求

班員の構成がきまり、座席が決定した時、私は全員に次のようを要求を出した。

- (1) 班内で起こったことは、班の6人が頭をよせ集めて解決せよ。決して先生に頼るな。
- (2) 班で困ったことや、班でどうしても解決できない問題のある時は、これを学級会に持ち出してみんなでも考えることにしよう。
- (3) 一学期のように、〇〇君が悪いことをして困ります。などと先生や学級会へ訴える前に、班でまずその人間をよくするように考えよ。悪いと知りつつやったことに対しては、徹底的に追及して反省させよ。
- (4) 今後、学習については班対抗の競争をさせるから、班内で助け合って学習しないと、みんなに取り残されて恥をかくことにもなる。
- (5) 班ノートを書く。これは各班毎日の目標を定め、これに基づいて反省する。目標は朝のHRで、反省は終礼のHRで班会議をしてノートに記録し、そのあとで全員に発表する。

IV 実践の歩みの中で

1 朝終礼時の班の反省会

朝礼時、3分間班の話し合いをさせて、その日の班のめあてを作らせる。終礼時、6分間班会議で今日のめあてと生活全般について反省させ、班ノートに輪番制に書かせる。そのあと、教師の司会で班ごとに発表させる。

最初の各班のめあては「静かに学習すること」「授業中しっかりと先生のお話を聞くこと」「教室内で遊んだり騒いだりしないこと」というような一般生活目標に類似したものであった。今までともすると「いい加減に決めて、いい加減に守らない」傾向にあったこれらの目標を、班という小単位で話し合って決めたのだから、今までとは違った決意があっというまであった。しかし、終礼の反省会になると依然として、「A君は授業中三度もうるさくした。」「B君は席を離れておしゃべりした。」「C君はうしろばかり向いて、注意してもすぐまた忘れてうしろを向いてしまう。」といったような個人攻撃が続いた。そうしてそれが「注意してもらいたい。」「罰してほしい。」という権威依存的な姿勢になるのである。私は知らん顔をして「そんなことは班の問題だ。そんなことが直せんような班は、班としての値打ちがないぞ」とほうっておいた。

2 学習の助け合いへ進む

学習の班競争をさせることを宣言してから、私は他の教師へも依頼して、主に小テストについて班の成績を発表させ比較させるようにした。自分の教科である英語ではほぼ一週間に一回の割で単語の書取りテストをし、国語の漢字書取り、数学の計算、理科の元素記号などのテストも一週間に少なくとも三回以上実施した。生徒の中には度々のテストに馴れて、それを何とも思わない傾向のものもあった。ところが班の成績が発表されてからは、彼等の目の色が変わって来た。そして班ノートの中に、彼等がさまざまな方法で助け合い学習を試みている事があらわれて来た。

- 4班「きょう5限にテストがあるので、班で問題を作って休み時間にみんなでやった。その結果全員ともたいへんよい点だった。」
- 8班「きょうの英語の平均点は6点。まちがった単語20回ずつ明日まで書いてくる。」
- 5班「放課後、班で数学のテストをやることにきまった。」

こういう空気の中で、班の宿題調べ表、得点黒星表などが班の話し合いでできまって、班ノートの裏側に記録される班もでて来た。宿題を忘れるものは少なくなったし、小テストに関する限り、学習成績はにわか

にあがったようである。しかし、予想されたことではあったが、数回の小テストですでに他の班よりぐっと成績の落ちる班が生じてきた。

3 個人の目標を大切にすること

事例「うちの班はだめだ」……2班のノートから「今日の小テストでは、うちの班は平均点4.5点、他の班はみんな7点・8点なのにうちの班はいつも成績が上がらない。負けてばかりいるので恥ずかしい」

教師「待って下さい。今の2班の反省についてみんなどう思いますか。だめな班だと思いませんか」

生徒A「思わないよ」生徒B「だけど、もっと班で教え合った方がいいと思う。2班はいつもけんかばかりしていて仲が悪いようだ。もっと仲よく助け合えば成績も上がると思います」

教師「確かに2班の成績は悪い。しかし、私は注意して見ているが、O君は今日4つ書けた。Nさんも4つ書けた。いままではこんなに書けなかった。これはすばらしい進歩だと思う。こういうふうに、少しずつでもいいから進歩すること、これが大切なんだ」

そうして、私はさらに目標やねらいの決め方について、班全体の目標も大切だが、個人の目標をもっと大切にすることを、時には個人個人が得点目標を違えて、A君は6点、Bさんは8点、C君は4点と、自分がせい一ぱい努力して取れそうな点を目標にすることもよい事だ。と話した。

4 妥協を排除し、きびしい生活態度を要求する

班活動も軌道にのってくると、班内の親しさが増し、助け合いが活発になる反面、悪いことをしたものに對するきびしい追及をゆるめて、いい加減なところで妥協する班が出てくる。

事例「許してちょうだい」……4班のノートから「今日I君は自習時間中に廊下で遊んでいて、先生に注意された。I君は反省して班のみんなに『許してちょうだい』とあやまった」“許してちょうだい”に特に力を入れて読み、その語調のおかしさに一同はどっと笑った。当のI君は、自分のことばがひき起こした笑いににやにやしている。クラスには一瞬なごやかな笑いが満ちたようだった。私も笑いたかったが、おかしさをこらえてわざと仏頂面を作った。みんなは私の顔を見て笑いをひそめた。クラスが静まりかえった時、私は声を大きくして言った。

「私はちっともおかしくない。むしろ腹が立つくらいだ。『許してちょうだい』とは何だ。そんなふざけた反省があるか。下品なことばで人を笑わせて、それで自分の罪をぬぐってしまおうというのは、もっともいやらしい根性だ。もう一回、班で反省のやり直しをさせる」

Iはあとで班会議によって追及され罰を与えられて、少ししょげかえていた。4班の浮わついた空気も静まったように見えた。Iにはきのどくだが、班の反省の仕方をきびしいものにするにはある程度止むを得ないことである。

V 班活動の評価

1 評価の意図

二学期も終りに近づき、4月以来今までの班活動を反省してみて、実際には10月末から現在までの約2か月間の班活動によって、クラスにどんなプラスの面があったか、各個人についてはどうかなどと班での効果や影響について反省する必要を痛感した。東京教育大附属中の研究による「班活動評価」（「中学教育」第8巻第10号）の形式を参考にし、別表のようなアンケートをとった。

2 評価の方法

第1表

班活動についてのアンケート		班 男・女				
*あなたの班について、次の質問に答えて下さい。						
①班活動について、下の表の適する所に○を書き入れなさい。						
項目	段階	たいへんうまくいった	だいたいうまくいった	ふつう	あまりうまくいかなかった	ぜんぜん効果がなかった
週番活動						
清掃						
忘れもの・遅刻						
宿題						
勉強の助け合い						
班の学習成績						
男女の協力						
班のまとまり						
②上のことに関係して、次に答えなさい。						
○うまくいった班はその理由()						
○うまくいかなかった班はその理由()						
③班で、これからやつたらよいと思うこと。()						

第2表

班と班長についてのアンケート	班 男・女
①あなたは、今の班長をどう思いますか。(1つだけ○をつける)	
a 学級班長について	
1 自分勝手にきめることが多い。	
2 みんなとよく相談する。	
3 自分は何にもしていない。	
4 その他()	
b 週番班長について	
1 学級班長に相談せず自分勝手にふるまう。	
2 学級班長をよく助け、みんなと相談する。	
3 自分の役目にも忠実でなく、あまり仕事をしない。	
4 その他()	
②あなたは、今の班をどう思いますか。	
1 班は全く不要	
2 班はあつてもよいが、組みかえてもらいたい。	
3 現在の班のままでよい。	
4 かえても、かえなくてもよい。	

アンケートは第1表および第2表のようなものである。班名と男女の別を書かせたが無記名とし、できるだけ客観的なものと心がけた。

第1表では、班活動の評価を数量化するため5段階評価した。(＋2から－2まで与える。)

第2表では、主として班長の班員に対する働きかけを見たいと思い、また現在の班に対する班員の考えを調べて見た。

3 評価の結果

ア 第1表の結果についての考察……第3表は、クラス全員についての各項目、各評価段階の人数と評価合計点を示しているが、最も効果の上がっているのは「忘れもの、遅刻」「週番活動」など生活のきまりり面であり「班のまとまり」「男女の協力」など心情面がこれに次ぎ、ねらっていた「勉強の助け合い」「班の学習成績」では良い班と悪い班の差がありすぎて、全体的によい結果がなかった。

第4表は、各班ごとの評価合計点であるが、2つの班がマイナスを示している。良い班は4.6.8班の順であるが、8班はこの時期2か月は週番活動に当らなかったので集計からはずした。

うまくいった、或いはいかなかった班の理由を記述させてみると、プラスの大きい4.6.8班はその理由を、「みんな協力した」「まとまりがあった」「班長のいうことをみんなをよく聞いた」「班長もいしみんな気が合う」など、多分に心情的な融和を示している。マイナス点の1.2班は、「班長だけ活発で班員は消極的だった」「学級班長と週番班長の意見が合わなかった」「まとまりがなかった」「気の合った人がいなかった」などをあげている。

イ 第2表の結果についての考察……第5表は、班長に対する班員の考えを示しているが、うまくいっている4.6.8班では、班長のどちらか一方が「班員とよく相談してきめる」民主的リーダーであることを表わしている。これらの班長について具体的な考察は、紙紋の都合で割愛する。(第6表の説明は省略)

第3表 クラスの「班活動についてのアンケート」

項目	段階 (評価点)		ふつう (0)	あまりうまくいかなかった (-1)	ぜんぜん効果がなかった (-2)	計
	たいへんうまくいった (+2)	だいたいうまくいった (+1)				
週番活動	4人 (+8)	17人 (+17)	15人 (0)	6人 (-6)	0人 (0)	(+19)
清掃	3 (+6)	24 (+24)	13 (0)	7 (-7)	1 (-2)	(+21)
忘れもの・遅刻	8 (+16)	18 (+18)	16 (0)	6 (-6)	0 (0)	(+28)
宿題	5 (+10)	13 (+13)	20 (0)	9 (-9)	1 (-2)	(+12)
勉強の助け合い	10 (+20)	14 (+14)	8 (0)	15 (-15)	1 (-2)	(+17)
班の学習成績	4 (+8)	20 (+20)	18 (0)	4 (-4)	1 (-2)	(+22)
男女の協力	15 (+30)	5 (+5)	18 (0)	6 (-6)	3 (-6)	(+23)
班のまとまり	19 (+38)	3 (+3)	13 (0)	12 (-12)	1 (-2)	(+27)
計	68人 (+136)	114人 (+114)	121人 (0)	65人 (-65)	8人 (-16)	(+169)

第4表 各班ごとの「班活動についてのアンケート」

段階	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班
週番活動	-1	-1	+6	+5	+2	+7	+1	
清掃	0	-1	+1	+5	+5	0	+6	+5
忘れもの・遅刻	+5	+1	+8	+6	-1	+5	+2	+2
宿題	-2	-1	-2	-1	+3	+6	0	+9
勉強の助け合い	-5	-2	0	+12	+4	+10	-2	0
班の学習成績	+1	-4	+2	+3	+7	+1	+5	+7
男女の協力	-4	-3	-2	+12	+5	+10	0	+5
班のまとまり	-1	-5	0	+12	-3	+11	+1	+12
計	-7	-16	+13	+54	+22	+50	+13	+40

第5表 「あなたは、今の班長をどう思いますか」

班名	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班
学級班長	SA (女)	OO (男)	SF (女)	HY (男)	ST (女)	KK (男)	YI (女)	NN (男)
1 自分勝手にきめる	0人	0人	2人	1人	3人	0人	0人	0人
2 みんなとよく相談する	4	1	3	4	2	5	5	2
3 何にもしないている	0	4	0	0	0	0	0	3
4 その他	1	0	0	0	0	0	0	0
週番班長	SA (女)	HY (女)	HT (男)	OY (女)	OM (男)	AH (女)	SC (男)	SY (女)
1 自分勝手にふるまう	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	0人
2 学級班長を助ける	2	5	3	5	1	5	2	5
3 自分の役目に忠実でない	4	0	1	0	2	0	0	0
4 その他	0	0	1	0	2	0	1	0

第6表 「あなたは、今の班をどう思いますか」

項目	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	計
1 班は全く不要	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
2 組みかえてほしい	1	4	3	0	1	0	5	0	14
3 現在のままでよい	4	1	2	5	2	5	0	6	25
4 かえてもかえなくてもよい	1	1	1	1	3	1	1	0	9

おわりに

はたして班づくりは妥当であったか。はたして班活動は集団学習への道へ一歩踏み出したか。今反省してみると甚だ疑問なきを得ない。三学期が始まって新たな班が編成され、新たな活動が開始されたが、今それを記すスペースがない。ただ言えることは、これからますます班学習を強化する時、班や個人の内的外的葛藤が激しくなるに違いない、ということである。しかしこの苦悩をのり超えた時、生徒は学習の喜びと助け合いの尊さを知るのではなかろうか。私は班学習を強化する一方、リーダーを自覚させ訓練し、脱落者や問題児および孤立児に対する個人指導を強めていこうと思っている。そしてこの生徒たちが二年生になっても学習意欲を持続させ、三年生になって進学競争のうずまき込まれても、たくましく自分の道を切りひらいて行くことを心から祈っている。